



“まちづくり”を考える情報誌「おッ!!まっちい～」100号記念に寄せて “群馬流”的まちづくりのバイブルとなることを祈念して

帝京大学経済学部観光経営学科長 教授 大下 茂

創刊から16年の歳月を経て、100号の記念すべき発行を迎えたことにお祝い申し上げます。

100号、それは数字としての意味以外に、『百』と記述することで、“多くのもの”の意味を持ち合わせています。百貨店、百獣、百科事典や百人一首等、100を超えるものを代表する言葉として『百』が使われています。“まちづくり”を考える情報誌「おッ!!まっちい～」の“百号”には、これまでにまちづくり関連の県内外の多くの情報が掲載され、それをヒントや手掛かりとして新たな取組みへと発展する源となってきたと思われます。

掲載記事を辿ると、適時性のあるまちづくり情報やまちづくりに先行的に取り組んでいる地域の情報と、群馬県発信の地域ならではの情報を、群馬県に軸足をおいて編集されてきたことに意味と意義があります。志をもってまちづくりに取組む者にとって、前者は“風”的情報を、後者は“土”的情報をもたらし、地域の中でのまちづくりの熱意が重なることで、21世紀の県土の新しい“風土”を形づくりつつあることに貢献しています。

2004.7の24号に『桐生新町まちづくり展』でのまちづくり講演会の紹介をいたしました後、『魅力あるまちづくりパートナーネットワーク講座』の講師の用命を賜ることとなりました。また、79号(2013.9)からは、小職のゼミ生が寄稿する「観光まちづくり最前線」に誌面をさいてくださり、これまで4代のゼミ生が櫻がけでの執筆リレーを行い12回の寄稿をさせていただく等、群馬県まちづくり活動の応援団となる機会をいただきました。

東毛
「交流」とまちづくりをテーマに
「まちづくり講演会」開催!
今月、桐生新町地区、安曇、味噌醤油で、「桐生新町まちづくり展」が行われました。月16日から始まったこの展示は、27周年「まちづくりの年」での基調講演と併設です。本二ゴラウイの会による「まちづくり情報館」。そして、前回より出展を行いました。
基調講演では、これからの「まちづくり」が「まちづくり」だとおっしゃっていました。歴史的観で、「人・モノ・情報の集積往来した地域の活性化」とありました。「まちづくり」として、桐生新町の今後の取り組みについて、また、その他のまちづくりの取り組みについても紹介されました。地元の活性化のようす。
近畿地区（よこしま）・滋賀県など、住んでいる地域が楽しめることがまちづくりの基本です。

本町一丁目・二丁目の街並み
これが、今、町の暮らしではある一丁目・二丁目のイメージです。なかなかこのままではあります。これらの建物を残しながら、まちづくりができるない、知恵をしづつまっています。

まちづくり展の様子
「まちづくり情報館」は展示館です。桐生大工芸、足利工業大工芸、桐生短期大学、桐生工業高校の協力により出展されています。学生さんたち、なかなかいいですね。

こんな物みつけました
本町通りを商店街で歩いていましたら、こんな面白い見つけました。すぐに自転車が止まり、シャッターを押していました。これに乗ってアーバンクライムどうですか。

○お問い合わせ先
桐生市都市機能まちづくり推進課 0277-46-1111
県都域振興部行政グループ 027-226-3663

まっちいデビューとなった24号(2004.7)。『桐生新町まちづくり展(まちづくり講演会)』の紹介記事

日本のみならず世界的にも内発による自国・自地域の活力を高める方向に向きつつあります。このような時流の中、本誌が地域内外の情報を群馬県ならではの視点から切り込む『群馬流(style)のまちづくりの情報誌』のバイブルとなり、群馬県のまちづくりが百花繚乱の活動へと発展することを祈念いたしております。



2年目のパートナーネットワーク講座(2005年度)、榛名町社家町の体育館にて。翌朝、前日の飲み残しのコーヒーが凍っていました。

